

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-41806

(43)公開日 平成6年(1994)2月15日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 4 2 B 1/18  
3/18

審査請求 有 請求項の数 2(全 5 頁)

(21)出願番号 特願平4-149922  
(22)出願日 平成4年(1992)5月18日

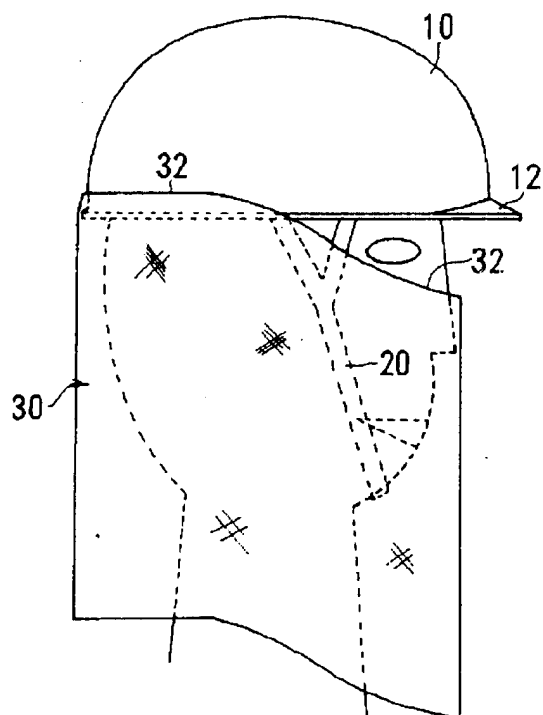
(71)出願人 591202915  
飯島 重三郎  
長野県長野市青木島町大塚1175-2  
(71)出願人 592125042  
町田 英二  
長野県長野市青木島町大塚462  
(72)発明者 飯島 重三郎  
長野県長野市青木島町大塚1175-2  
(74)代理人 弁理士 松田 宗久

(54)【発明の名称】 首及び顔面覆い布付きヘルメット

(57)【要約】

【目的】 ヘルメット着用者の首及び顔面を覆う布材を、ヘルメットの機能を損なうことなく、ヘルメット本体に備えたヘルメットを得る。

【構成】 ヘルメット本体10後部からヘルメット本体10左右側部にかけてのヘルメット本体10外壁部分に、首及び顔面を覆う布材の上部側縁32の中間部分を取着して、布材30をヘルメット本体10下方に垂下する。布材30には、その上部側縁32の左右端部に、布材の上部側縁32の左右端部間を着脱自在に結合する結合手段50を備える。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 頭部に被るヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけてのヘルメット本体外壁部分に、ヘルメット着用者の首及び顔面を覆う布材の上部側縁の中間部分を取着して、前記布材をヘルメット本体下方に垂下すると共に、前記布材の上部側縁の左右端部に、布材の上部側縁の左右端部間を着脱自在に結合する結合手段を備えてなる、首及び顔面覆い布付きヘルメット。

【請求項2】 布材の上部側縁の中間部分を、ヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけてのヘルメット本体外壁部分に着脱自在に取着した請求項1記載の首及び顔面覆い布付きヘルメット。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、工事現場、建築現場等で作業をする際に、作業者が頭部に被る、頭部保護用のヘルメットに関する。

【0002】

【従来の技術】上記ヘルメットは、その本体を強靱な硬質樹脂等で形成していて、その外観がほぼ半球状をしている。ヘルメット本体の左右側部間には、顎紐を垂下して、その顎紐を顎に引っ掛けることにより、ヘルメット本体が頭部から脱落しないように、ヘルメット本体を頭部に安定して固定できるようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、従来の上記ヘルメットでは、首及び顔面を覆う庇等がなく、ヘルメットを頭部に被って作業をした際に、作業者の首及び顔面に直射日光が当たって、ヘルメット着用者が首及び顔面に暑さや不快感を覚えた。

【0004】このことは特に、真夏等に屋外で作業をした場合に痛切に感じられ、極端な場合には、ヘルメット着用者が日射病に陥ったり、極度に日焼けして皮膚癌に罹ったりした。

【0005】そのため、真夏等においては、ヘルメット着用者は、ヘルメット本体内側の頭部にタオルを被るようにして、そのタオルで首や顔面に直接に日光が当たるのを防いでいる。

【0006】しかしながら、ヘルメット本体内側の頭部にタオルを被った場合には、ヘルメット本体がタオルで頭部上方に浮き上がった状態となったり、タオルが邪魔をして、顎紐を顎に的確に引っ掛けることができなくなったりした。そして、ヘルメット本体を頭部に安定して被ることが不可能となった。

【0007】そのため、ヘルメット着用者が腰を屈めて前傾姿勢を取った際などに、ヘルメット本体が頭部から脱落して、ヘルメット着用者が頭部に損傷を負うことがあった。

【0008】本発明は、このような課題に鑑みてなされ

2

たもので、ヘルメット着用者の首及び顔面に日光が直接に当たるのを防ぐことができると共に、ヘルメット着用者が顎紐を顎に的確に引っ掛けて、ヘルメット本体を頭部に容易に脱落しないように安定させて被ることのできる、首及び顔面覆い布付きヘルメット（以下、ヘルメットという）を提供しようとするものである。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明のヘルメットは、頭部に被るヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけてのヘルメット本体外壁部分に、ヘルメット着用者の首及び顔面を覆う布材の上部側縁の中間部分を取着して、前記布材をヘルメット本体下方に垂下すると共に、前記布材の上部側縁の左右端部に、布材の上部側縁の左右端部間を着脱自在に結合する結合手段を備えてなることを特徴としている。

【0010】本発明のヘルメットにおいては、布材の上部側縁の中間部分を、ヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけてのヘルメット本体外壁部分に着脱自在に取着することを好適としている。

【0011】

【作用】上記構成のヘルメットにおいては、ヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけてのヘルメット本体外壁部分に、ヘルメット着用者の首及び顔面を覆う布材の上部側縁の中間部分を取着して、布材をヘルメット本体下方に垂下している。

【0012】そのため、ヘルメット本体を頭部に被った際に、ヘルメット本体が布材で頭部上方に浮き上がった状態となったり、布材が邪魔をして、ヘルメット本体に垂下した顎紐を顎に引っ掛けたりすることができなくなったりすることがなく、ヘルメット本体を頭部に安定させて被ることができる。

【0013】それと共に、ヘルメット着用者がヘルメット本体下方に垂下した布材で首後部や首側部を覆って、それらの部分に日光や風雨等が直接に当たるのを防ぐことができる。

【0014】また、上記構成のヘルメットにおいては、布材の上部側縁の左右端部に、布材の上部側縁の左右端部間を着脱自在に結合する結合手段を備えている。

【0015】そのため、ヘルメット着用者がヘルメット本体下方に垂下した布材の左右端部を顔面に被せて、その顔面に被せた布材の上部側縁の左右端部間を顔面上で結合手段により結合することにより、布材の左右端部で顔面を的確に覆うことができる。そして、その顔を覆った布材で、顔面に日光や風雨等が直接に当たるのを防いだり、塵埃や塗料等の人体に有毒な物質が口や鼻に侵入したりするのを防いだりすることができる。

【0016】また、ヘルメット着用者がヘルメット本体下方に垂下した布材の左右端部を顎に巻き掛けて、その顎に巻き掛けた布材の上部側縁の端部間を結合手段によ

り結合することにより、布材の左右端部で首前部を的確に覆って、首前部に日光や風雨等が直接に当たるのを防ぐことができる。

【0017】さらに、ヘルメット着用者がヘルメット本体下方に垂下した布材の左右端部をヘルメット本体後部に折り返して、その折り返した布材の上部側縁の端部間をヘルメット本体後部上で結合手段により結合することにより、布材の左右端部をヘルメット本体外壁に巻き付けた状態として、布材の左右端部が顔面にかかって視界を遮ったり不快感を覚えたりするのを的確に防止できる。

【0018】また、布材の上部側縁の中間部分をヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけてのヘルメット本体外壁部分に着脱自在に装着したヘルメットにあっては、布材が汗等で汚れたり破れたりした際に、布材をヘルメット本体から分離して容易かつ的確に洗濯したり繕ったり、又はヘルメット本体に装着した汚れたり破れたりした布材を他の新しい布材に容易に交換したりできる。

【0019】

【実施例】次に、本発明の実施例を図面に従い説明する。図1ないし図4は本発明のヘルメットの好適な実施例を示し、図1はその使用状態を示す側面図、図2はそのヘルメット本体の側面図、図3はその布材の一部省略裏面図、図4はその使用状態を示す正面図である。以下に、このヘルメットを説明する。

【0020】図において、10は、頭部に被る強靱な硬質樹脂等で形成したヘルメット本体である。

【0021】ヘルメット本体10は、その外観が半球状をしていて、その前部下端縁に、短尺な庇12を延設している。

【0022】ヘルメット本体10の左右下端部間には、顎紐20をほぼU字状に垂下している。そして、ヘルメット本体10を頭部に被った際に、顎紐20を顎に引っ掛けて、ヘルメット本体10を頭部に容易に脱落しないように安定させて固定できるようにしている。

【0023】以上の構成は、従来のヘルメットと同様であるが、図のヘルメットでは、図1に示したように、ヘルメット本体10後部からヘルメット本体10左右側部にかけてのヘルメット本体10外壁部分に、ヘルメット着用者の首及び顔面を覆う布材30の上部側縁32の中間部分を装着して、その布材30をヘルメット本体10下方に垂下している。

【0024】具体的には、図3に示したような、吸水性に優れたタオル生地等からなるほぼ帯状をした布材30の上部側縁32の中間部分を、その布材の上部側縁32の左右端部を残して、ヘルメット本体10後部からヘルメット本体10左右側部にかけてのヘルメット本体10の下端外壁部分に装着している。そして、布材30を、ヘルメット本体10下方に垂下している。

【0025】布材の上部側縁32の中間部分は、ヘルメット本体10後部からヘルメット本体10左右側部にかけてのヘルメット本体10外壁部分に着脱自在に装着している。

【0026】具体的には、図3に示したように、布材裏側の上部側縁32の中間部分に、雌雄面ファスナーの一方の面ファスナー40を長く帯状に縫着している。それと共に、図2に示したように、ヘルメット本体10後部からヘルメット本体10左右側部にかけてのヘルメット本体10の下端外壁部分に、雌雄面ファスナーの他方の面ファスナー42を長く帯状に被着している。そして、それらのヘルメット本体10の下部外壁部分に被着した面ファスナー42と布材の上部側縁32の中間部分に縫着した面ファスナー40とを互いに重ね合わせて圧接することにより、それらの面ファスナー40、42間を結合して、布材の上部側縁32の中間部分をヘルメット本体10の下端外壁部分に装着できるようにしている。それと共に、ヘルメット本体10の下部外壁部分に被着した面ファスナー42から布材の上部側縁32の中間部分に縫着した面ファスナー40をそれらの面ファスナー40、42間を結合している結合力に抗して離隔させることにより、布材の上部側縁32の中間部分をヘルメット本体10の下端外壁部分から分離できるようにしている。

【0027】布材の上部側縁32の左右端部には、布材の上部側縁32の左右端部間を着脱自在に結合する結合手段50を備えている。

【0028】具体的には、図3に示したように、布材の上部側縁32の左右端部の布材30表面側とその裏面側とに、雌雄面ファスナー52、54をそれぞれ縫着している。そして、それらの布材30表面側とその裏面側とに備えた雌雄面ファスナー52、54を互いに重ね合わせて圧接して、それらの面ファスナー52、54間を結合することにより、布材の上部側縁32の左右端部間を結合できるようにしている。それと共に、面ファスナー52、54間を結合している結合力に抗して、布材の上部側縁32の左右端部の表面側とその裏面側とに装着した面ファスナー52、54間を離隔させることにより、布材の上部側縁32の左右端部間を分離することができるようにしている。

【0029】図1ないし図4に示したヘルメットは、以上のように構成している。

【0030】次に、その使用例並びにその作用を説明する。

【0031】ヘルメットを着用する際には、次のようにする。

【0032】図1と図4に示したように、ヘルメット本体10を頭部に被ると共に、ヘルメット本体10の左右側部間に垂下した顎紐20を顎に引っ掛けて、ヘルメット本体10を頭部に安定させて固定する。

5

【0033】それと共に、ヘルメット本体10下方に垂下した布材30でヘルメット着用者の首後部や首側部を覆うようにする。

【0034】さらに、ヘルメット本体10下方に垂下した布材30の左右端部を顔面に被せて、その顔面に被せた布材の上部側縁32の左右端部間を顔面上で結合手段の面ファスナー52、54で結合し、布材30の左右端部で顔面を覆うようにする。

【0035】すると、首後部や首側部を覆った布材30で、それらの部分に日光や風雨等が直接に当たって、ヘルメット着用者が暑さ寒さや不快感を覚えるのを防ぐことができる。

【0036】また、顔面を覆った布材30で、顔面に日光や風雨等が直接に当たるのを防ぐことができる。それと共に、顔面を覆った布材30で、塵埃や塗料等の人体に有毒な物質が口や鼻に侵入するのを防ぐことができる。

【0037】また、図5に示したように、布材30の左右端部を顎に巻き掛けて、その顎に巻き掛けた布材の上部側縁32の端部間を結合手段50の面ファスナー52、54で結合することにより、布材30の左右端部で首前部を覆うことができる。そして、首前部に日光や風雨等が直接に当たるのを防ぐことができる。

【0038】さらに、図6に示したように、布材30の左右端部をヘルメット本体10後部に折り返して、その折り返した布材の上部側縁32の端部間をヘルメット本体10後部上で結合手段50の面ファスナー52、54で結合することにより、布材30の左右端部をヘルメット本体10外壁に巻き付けた状態とすることができる。そして、布材30の左右端部が顔面にかかって視界を遮ったり不快感を覚えたりするのを防止できる。

【0039】また、布材30が汗等で汚れたり破れたりした際には、布材30をヘルメット本体10外壁部分に取着している面ファスナー52、54間を離隔させて、布材30をヘルメット本体10外壁部分から分離することができる。そして、その汚れたり破れたりした布材30を容易かつ的確に洗濯したり繕ったり、又はヘルメット本体10に取着した汚れたり破れたりした布材30を他の新しい布材30に容易に交換したりできる。

【0040】なお、布材の上部側縁32の中間部分は、ヘルメット本体10外壁部分に、ホック等を用いて、着脱自在に取着しても良い。

【0041】また、布材の上部側縁32の左右端部間を着脱自在に結合する結合手段50には、ホック等を用いても良い。

【0042】また、布材の上部側縁32の中間部分は、ヘルメット本体10外壁部分に、止めピン、接着剤等を用いて、容易に分離できないように取着しても良い。そして、布材30が風等が吹いてもヘルメット本体10外壁部分から容易に脱落しないように、布材30をヘルメ

6

ット本体10外壁部分に強固に取着しても良い。

【0043】また、布材30には、防水性のあるナイロン等の不織布を用いたり、通気性に優れた多孔質の麻布等を用いたりしても良い。

【0044】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のヘルメットにおいては、ヘルメット着用者の首及び顔面を覆う布材をヘルメット本体外壁部分に取着して、ヘルメット本体を頭部に被った際に、ヘルメット本体が布材で頭部上方に浮き上がった状態となったり、布材が邪魔をして、ヘルメット本体に垂下した顎紐を顎に引っ掛けたりすることができなくなったりすることがない。

【0045】そのため、本発明のヘルメットによれば、ヘルメット着用者の首及び顔面を覆う布材でヘルメットの機能が損なわれることがなく、ヘルメット本体を頭部に安定させて被ることができる。

【0046】それと共に、布材で首後部や首側部を覆うことにより、それらの部分に日光や風雨等が直接に当たって、それらの部分に暑さ寒さや不快感を覚えるを防止できる。

【0047】また、布材の上部側縁の左右端部間を顔面上で結合手段により結合して、布材の左右端部で顔面を覆うことにより、顔面に日光や風雨等が直接に当たるのを的確に防ぐことができる。

【0048】また、布材の上部側縁の左右端部を顎に巻き掛けて、その顎に巻き掛けた布材の上部側縁の左右端部間を結合手段により結合し、布材の左右端部で首前面を覆うことにより、首前面に日光や風雨等が直接に当たるのを的確に防ぐことができる。

【0049】さらに、布材の左右端部をヘルメット本体後部外壁上に折り返して、その折り返した布材の上部側縁の左右端部を結合手段により結合し、布材の左右端部をヘルメット本体外壁に巻き付けることにより、布材の左右端部が顔面にかかって視界が遮られたり不快感を覚えたりするのを防止できる。

【0050】また、布材の上部側縁の中間部分をヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけての部分に着脱自在に取着したヘルメットにあっては、汗等で汚れたり破れたりした布材を、ヘルメット本体後部からヘルメット本体左右側部にかけての部分から分離して、容易かつ的確に洗濯したり繕ったり、又はその汗等で汚れたり破れたりした布材を他の新しい布材に容易に交換したりできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のヘルメットの使用状態を示す側面図である。

【図2】本発明のヘルメットのヘルメット本体の側面図である。

【図3】本発明のヘルメットの布材の一部省略裏面図である。

7

8

【図4】本発明のヘルメットの使用状態を示す正面図である。

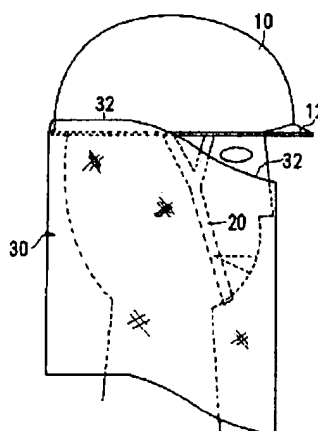
【図5】本発明のヘルメットの使用状態を示す正面図である。

【図6】本発明のヘルメットの使用状態を示す側面図である。

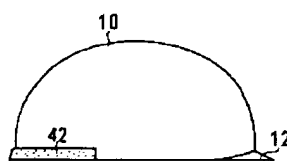
【符号の説明】

- 10 ヘルメット本体
- 20 顎紐
- 30 布材
- 32 布材の上部側縁
- 40、42 面ファスナー
- 50 結合手段
- 52、54 面ファスナー

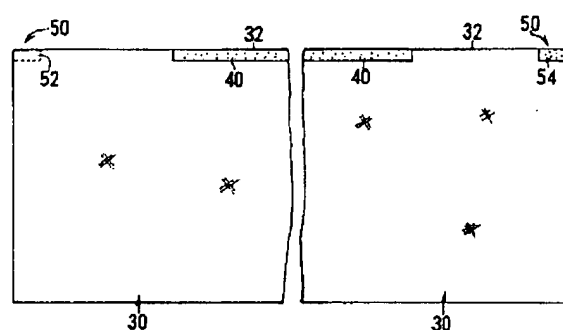
【図1】



【図2】

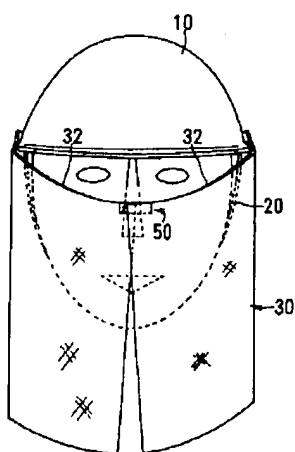


【図3】

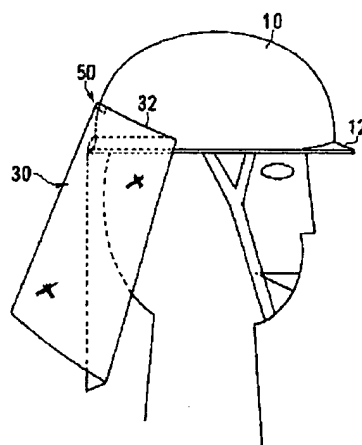
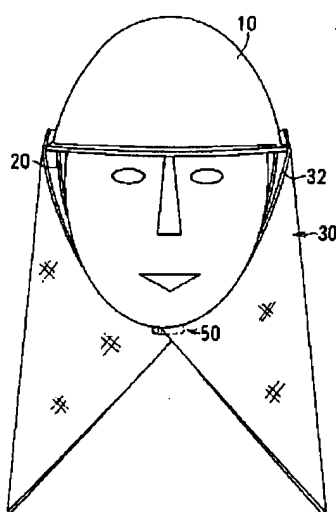


【図6】

【図4】



【図5】



PAT-NO: JP406041806A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06041806 A

TITLE: HELMET WITH CLOTH FOR COVERING NECK AND FACE

PUBN-DATE: February 15, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

IJIMA, JUSABURO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

IJIMA JUSABURO

MACHIDA EIJI

COUNTRY

N/A

N/A

APPL-NO: JP04149922

APPL-DATE: May 18, 1992

INT-CL (IPC): A42B001/18, A42B003/18

US-CL-CURRENT: 2/424

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a helmet having a helmet body equipped with a cloth material for covering the neck and face of a helmet wearer without impairing the function of the helmet.

CONSTITUTION: The objective helmet is obtained by attaching an intermediate part of an upper side edge 32 of a cloth material for covering the neck and face to the wall part of the helmet body 10 ranging from its rear to the right and left sides thereof and hanging the cloth material 30 downward from the helmet body 10. The cloth material 30 is provided with a binding means 50 for detachably binding the right and left ends of the upper side edge 32 in the right and left ends of the upper side edge 32.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio